

■体験的学習講座

第9講 テーマ「33年に一度のご縁・名刹の旅」

(会場：櫛野寺・阿弥陀寺)

講座前半は、櫛野寺様を拝観。全面改築となった宝物殿で最澄作と伝えられる「十一面観世音菩薩」と対面させていただきました。三浦ご住職様よりその由緒をご説明いただき、慈悲に満ちた仏の世界を学びました。観音様が33通りに姿を変え我々をお救いくださるとの教えにより、この大開帳は33年に1度ということです。



また、この日は、東京・大阪の博物館に寄託されていた仏様も里帰りされ、約80年ぶりに櫛野寺仏像群が勢ぞろいとなりました。このような機会に恵まれました生涯カレッジの幸運を喜び合いたいと思います。講座後半は、東隣にある阿弥陀寺様にて、佐藤ご住職様より「名刹の旅」と題した法話を拝聴させていただきました。7枚もの



資料を準備、増刷りまでしていただき恐縮の至りでした。

受講生の講座記録には、「この地域が昔から信仰の厚い地域であることを改めて感じた」「秘仏観音様に出会えてよかった」「仏像の制作にあたった仏師の思いに想いを馳せることができた」「本堂に設置されていた扇風機が講義のイントロになるとは予想できなかった」「『不求自得（ふぐじとく：求めずとも得る利益）』の言葉が印象に残った」「生老病死の話はじめ、佐藤ご住職様の仏教に対するお考えに興味を抱いた」など、この日は、「全ては心の持ちよう」を学びました。仏教のことを考える時間が持てたことに喜びを感じられた受講生も多かったようです。

第10講 テーマ「生誕140周年 与謝野晶子の文学」

(会場：立命館大学 BKC)

与謝野晶子著の「歌集『みだれ髪』を中心に」とのサブテーマを掲げられた文学講座。晶子の代表作、「髪五尺ときなば水にやわらかき少女こころは秘めて放たじ」「その子二十櫛にながるる黒髪のおごりの春のうつくしきかな」「やは肌のあつき血汐にふれも見でさびしからずや道を説く君」の3首を重点的に解説されました。その中で、俵万智さんの『チョコレート語訳 みだれ髪』を引き合いに出され、晶子文学の表現の特徴をデフォルメされました。

人物像については、彼女の作品の中から窺い知れる範囲の中でやんわりと官能的な部分に触れられました。「カレッジに参加しなかったら、一生出合わなかったかも知れないお話し。よかった」「『みだれ髪』の中身にはじめて出合った」「歌から読み取れる作者の立ち位置や思いと読み手の思いに違いが生じることを考えるのもおもしろい」「晶子という人間の存在感の強さ・大きさを感じた」「今後、私は、『山川登美子』のほうに傾倒するかも知れない」「みだれ髪を筆で書いていた晶子。字もみだれ髪よろしく艶っぽかったかも知れません」「これまで、文学に興味はなかったが、素直におもしろいと感じた」等、受講生は、晶子との出会いで、学びの意欲を一層高められました。

第11講 テーマ「蓬莱庭園鑑賞」

(会場：大池寺)

11月24日は、法話と演奏会の2本立て講座。清水ご住職様からは、行基菩薩が建立したと伝えられる大池寺の由緒、“日照りに悩む農民のため、灌漑用水として「心」という字の形に4つ池を掘り、その中央に寺を建立した“とのお話から、一刀三礼にて創られた釈迦如来様のお話、小堀遠州作、枯山水蓬莱庭園のいわれをよどみない言葉で語っていただきました。この日は、大池寺様のお部屋をいくつも独占してしまい、恐縮の至りとなりました。

講座日誌には、「何度も訪れているが、その度に新しい発見がある」「甲賀には、京都や奈良に負けない仏像がある。多くの人に来てもらいたい」「若い頃にはピンと来なかったお話かも知れないが…、大変よかった」「観音様が三十三の姿に身を変えて我々を守ってくださるとのお話が印象に残った」など、多方面にわたる感想が寄せられました。



(大池寺)

第12講 テーマ「秋・冬の草花の寄せ植え」

(会場：甲南高等養護学校)



定番となっている本講座。いい天気にも恵まれ、40名近い参加者を得ました。この日の講座の流れは、寄せ植えの仕方や注意すべき点の事前学習、その後、屋外に出て鉢植えの実習、最後はまた教室に戻り、肥料や植物の生体についての専門的な学習がありました。実習で使用した花は、クリサンセマムノースポール、ビオラ、デージー、アリッサム、ヘデラ。それぞれの特徴を生かし、単調にな



らないように配置。土は、粘土質に配慮して、たくさんもみがらを混ぜる、もみがらの土中での方向によって、保水の役目を果たす場合があるなど、おもしろい話がありました。その他、窒素、リン酸、カリの話も久しぶりに聞き、学生に帰った気分を味わいました。ただ、今年は「葉牡丹」がなくちょっと残念でした。しかし、成長度の異なる葉牡丹を入れないことのお話していただき、妙に納得して作品を持ち帰りました。手際よく実習ができるよう、ご準備いただいた甲南高等養護学校のスタッフ様に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

第13講 テーマ「地盤リスクを知り、災害から身を守る」

(会場：立命館大学)



【理論学習講座】

南海トラフ（水深6000mより浅い海底の溝）地震、今後30年以内に発生する確率が70～80%。震度6弱以上。今回の講座は、マスコミ情報で多少耳にしているとはいえ、誠にショッキングなものでした。地震発生メカニズムや想定される被害の状況などを、甲賀市に照らして解説をいただきました。ハザード（危険性）とリスク（損失の程度）の違いや大規模盛土造成地の問題、そして、地盤液状化の発生条件を地図や画像・動画で科学的にご指導をいただき、防災意識を高めるに十分な講座となりました。

講座日誌には、「どの程度まで、地震に備えようか」「早速、甲賀市のハザード

マップをHPで見たい」「自分の住んでいる箇所の危険性を真剣に考えたい」「正しく知り、正しく恐れることが、自分の命を守ることに繋がる」の感想をいただきました。

この日は、講座のあと「閉講式」を持ちました。条件をクリアされた29名の受講生に山下学長から修了証書が渡され、一年間の学びをねぎらわれました。岡本座長からは、立命館大学と甲賀市の連携・協力に関する包括協定に基づき、受講生のところに響く閉講の言葉をいただき、



一同、大変感激いたしました。

その後、「交流会」を持ち、全講座が収録されたパワーポイントを見て一年間の反省をしました。

食事後、早くも次年度の受講に意欲を示しておられる受講生もありました。

■補講

第1回補講 テーマ「はじめて学ぶ日本仏教」

(会場：キャンパスプラザ京都)

8月25日、立命館大学BKCより紹介を受け、大学コンソーシアム京都主催の京カレッジ大学リレー講座に参加しました。この日は、佛教大学文学部准教授の野呂先生に、「誰もが成仏できる教えとは何か」と題し、『法華経』と最澄の思想を学びました。

学習した項目を列举すると、①最澄のこぼれを味わう、②最澄の思想的立場と時代背景、③『法華経』とはなにか、④最澄の『法華経』理解。よみがながないと読めない専門用語が沢山出ましたが、要点は、①仏教がすべて万人を救うものではなく、厳しい修行を経た者だけを救うという教えもあること、②私たちが思い浮かべる大抵の教え(天台宗、浄土宗、浄土真宗、時宗、禅宗、臨済宗、曹洞宗・・・など)は、万人を成仏に導く大乘仏教であること、でした。

あいこが生涯カレッジからの参加は10数名でしたが、会場は、備え付けの椅子(約250脚)だけでは対応できないほど盛況でした。

第2回補講 テーマ「聞く、話す、飲む」

(会場：キャンパスプラザ京都)

11月3日。京都府立医科大学竹中学長による講義は、「聞く、話す、飲むー健康のためにそのしくみを学ぶー」。執刀歴豊富な医師の眼で、人間の一生を、聞く、話す、飲む(食べる)ことから考察されました。印象に残った言葉は、「認知症になった人の過去を振り返ってみれば、①難聴、②もの忘れ、③高血圧、④肥満、⑤睡眠の質、⑥アルコール、⑦喫煙、⑧糖尿病、・・・の傾向が見られた」。ドキッ!とされた受講生も多かったのではないのでしょうか。ただ、「認知症の防御因子もある。それは「運動」、「食事」、「社会参加」。」もう、先のカレッジで学んだ「ウォーキング」、「食の改善」の実践、そして、「生涯カレッジへの参加」も大きな役割を果たしていることが明確となり、ありがたい講座となりました。本カレッジからの参加者は数名でした。



第3回補講 テーマ「ムジーク in 水口」

(会場：大池寺)



大池寺蓬莱庭園を目の前にしてバロック音楽を聴くというなんとも贅沢な講座。受講生からの提案により実現しました。

演奏者は、大阪音楽大学在学中より、リコーダーの古楽奏法を学ばれ、関西を中心に全国各地での演奏会に出演してお

られる水越美鈴氏とイギリスのロンドン市立ギルドホール音楽院にてヴィオラ・ダ・ガンバの奏法を学ばれた関西の古楽先駆者西村喜子氏。「グリーン・スリーヴス」「ダニーボーイ」「小さい秋見つけた」「ヘンデル リコーダーソナタ」の演奏ほか、『バロック音楽とは』のお話や楽器

の説明など、誠に、興味のそそられる内容となりました。

受講生からは、「古楽器の音色に触れられて幸せでした」「ヴィオラ・ダ・ガンバとリコーダーの2つの演奏でしたが、素敵なハーモニーが奏でられ、至福の時間が過ごせました」「安らいだ気分になりました」「ヨーロッパ音楽の歴史の一端が学べ、バロックの意味(=ゆがんだ真珠)や歴史上の位置が分かり、新しい知識が身につきました」・・・。

参加者 40 数名。あいこうか生涯カレッジは、新しい試みに果敢にチャレンジしていきます。

第 4 回補講 テーマ「演奏会に参加」 ～大津シンフォニックバンド～ (会場: びわ湖ホール)

恒例となってきました年末の演奏会への参加。県の威信をかけて建築されたびわ湖ホールでの文化イベントに年に 1 度くらいは参加したいとの気持ちからこの講座が実現しました。

演奏曲は、「十二夜」「冬物語」「Mr. インクレディブル」「ポルコ・ロッソ 映画「紅の豚」より」「全日本吹奏楽出場曲」「ボレロ」「歌劇『カヴァレリア・ルスティカーナ』より」と、誠に多彩でボリュームのある曲ばかり。指揮は、甲賀市と関係の深い音楽監督の森島洋一氏と常任指揮者の中嶋民男氏。今年もクリスマス・イブを文化・芸術のシャワーを浴びて過ごすことになりました。

本カレッジからの参加申込者は過去最高の36名。「音楽のねうちが伝わるひとときでした」「入場者が千人を超えたと聞いてびっくり」「アンコール曲、指揮者のサンタ姿がおもしろかった」の声がありました。

“知的好奇心を大いに発揮し、各所での人の営みや美しい景色・音楽・絵画に触れて自らの生涯を豊かに歩む、そして拵げ高めあう。”これが、あいこうか生涯カレッジです。

